



きむらかおり

# 木村華織さんのご紹介

研究テーマ：(1) 日本の女性スポーツ黎明期における女子水泳に関する研究  
(2) 女性アスリートの競技継続に関する研究

木村華織講師紹介 補足事項

## プロフィール

1980年（昭和55年）横浜市生まれ  
中京大学体育学部卒業  
中京大学体育学研究科修士課程修了  
中京大学体育学研究科博士課程満期退学

### ■現職

東海学園大学スポーツ健康科学部  
スポーツ健康科学科 講師  
椋山女学園人間関係学部非常勤講師

### ■学位

体育学修士（中京大学大学院）

### ■社会貢献活動

日本スポーツとジェンダー学会 幹事  
（2009年～現在）日本リトル  
ク・アガミー 幹事（2015年～）

### ■研究業績（著書）

1. 『スポーツ・ジェンダー データブック 2010』、執筆箇所：「第二章 競技スポーツとジェンダー(1)(2)」11-13頁、「第四章 リーダーシップとジェンダー(3)」34-38頁、木村華織、日本スポーツとジェンダー学会編、2010年。

### ■研究業績（学術論文）

1. 「日本の女性スポーツ黎明期における女子水泳の組織化—日本水上競技連盟と日本女子水上競技連盟の組織統一に着目して—」. スポーツとジェンダー研究、第13巻、2015年。  
2. 「椋山女学校校友会誌『糸菊』(1924-1960)にみる前畑秀子」、木村

華織、体育史研究 第29巻、1-18頁、2012年。

2. 「女性トップ・アスリートの競技継続のための社会的条件に関する研究—1960年代から1990年代に活躍した選手の結婚・出産・育児というライフイベントに着目して—」、木村華織、スポーツとジェンダー研究 第8巻、48-62頁、2010年。

### ■研究業績（学会発表）

1. 「椋山高等女学校校友会誌『糸菊』における前畑秀子に関する記事の検討」、木村華織・來田享子、日本体育学会第62回大会、体育史専門分科会、鹿屋体育大学、2011年9月。他に多数有り。

### ◆近況活躍の場

今年2月、橋本市まちの歴史資料保存会主催による前畑秀子生誕100年顕彰事業記念講演会の講師として講演していただきました。

また、昨年10月、椋山女学園前畑秀子生誕百年展に、特別記念座談会と講演会が行われ、木村講師が講演されました。

### ◆学生時代のお話

学生時代は陸上競技の七種競技に熱中して、練習に明け暮れ、ほとんどの時間を陸上競技場で過ごしました。

競技成績は日本学生選手権で2位、日本選手権で5位でした。

### ◆前畑の研究に至った経緯

大学に入学して、陸上競技の歴史を知ろうと女性スポーツの本を手にしたところ、戦前二名のオリンピックメダリストがいました。陸上競技の人見絹枝さんと水泳の前畑秀子さんです。前畑さんの出身校が椋山女学園と知り椋山歴史文化館に伺ったのが、前畑研究の始まりでした。

### ■最近の研究のご紹介

科学研究費助成事業

【女性スポーツ黎明期における女子水泳の競技環境構築に関する研究】の抜粋  
研究期間 2013～2015年

本研究の目的は、女性スポーツ黎明期にあたる1920年代～1930年代の女子水泳を対象に、当時の競技環境がどのようにして構築されたのかを明らかにすることである。具体的には、日本女子水上競技連盟（以下、女子水連）および日本水上競技連盟（以下、水連）という2つの水泳組織に着目し、組織的役割という観点から両組織について検討を行う。平成25年度は、1) 女子水連の組織概要と活動実態、2) 女子水連の水連加盟否決と解散過程、について検討を行った。

課題1)の研究成果：当時の新聞、水泳関係文献・雑誌（「アスレチックス」、「運動年鑑」等）を用いて、女子水連に関する基礎的情報の収集および検討を行った。その結果、女子水連は、1)1929年前後に設立され1933年5月に解散していた、2)会長の和田豊子を除く委員は元選手や現役選手である女性たちが中心であった、3)存続期間中に3つの女子水泳競技会を開催しており、そこでの実施種目は日本女子オリンピック大会（水泳）と類似していた、ことが明らかとなった。以上、女子水連は女子水泳の普及を目的のひとつに据えた組織であることが、本検討により示唆された。

課題2)の研究成果：水連機関誌「水泳」、「日本水上競技連盟規約及び競技規程」、「水連四十年史」等を用いて検討を行った結果、1)1931年定例代議員会において、女子水連の水連への加盟否決と同時に水連内に「女子委員会」を設置することが決議されていた、2)女子水連の委員とメンバーを同じくして水連の女子委員会が組織されていた、3)2つの組織の統合は、女子水泳の普及という両者の目的においてはある程度一致するものであったこと、が明らかになった。

## 【補足事項】

## □学生時代の経歴と活躍（中京大学陸上競技部）

## 〈主な競技成績〉

1. 2007年 第91回日本陸上競技選手権大会 七種競技 5位（三重県営総合陸上競技場）
2. 2008年 日本選抜陸上和歌山大会 七種競技 4位（紀三井寺陸上競技場）
3. 2008年 第92回日本陸上競技選手権大会 七種競技 5位（川崎市等々力陸上競技場）
4. 2008年 日本学生陸上競技個人選手権大会 100mハードル 4位（平塚競技場）
5. 2008年 第77回日本学生陸上競技選手権大会 七種競技 2位（国立競技場）

## 〈中京大学 女子歴代20傑〉

- |                 |       |              |           |      |
|-----------------|-------|--------------|-----------|------|
| 1. 七種競技 4位      | 5125点 | 2008.4.19~20 | 日本選抜陸上和歌山 | 紀三井寺 |
| 2. 100mハードル 9位  | 14秒14 | 2008.7.4     | 西日本インカレ   | 西京極  |
| 3. 400mハードル 14位 | 62秒04 | 2008.5.10    | 東海インカレ    | 瑞穂   |

## 〈中京大学 女子歴代主将〉

第46代（2002年）

## 〈体育会功労者表彰および体育総会、国際大会、全国大会表彰〉

2008年度 個人の部 陸上競技部（体育学修士課程2年）

## □学会等での活躍

## ■JSSGS（日本スポーツとジェンダー学会）学会賞を受賞 本年度（2015）

「日本の女性スポーツ黎明期における女子水泳の組織化ー日本水上競技連盟と日本女子水上競技連盟の組織統一に着目してー」の論文に対して受賞

## ■2010年度のご活躍

「女性トップ・アスリートの競技継続のための社会的条件に関する研究 -1960~1990年代に活躍した選手の結婚・出産・育児というライフラインイベントに着目して-」論文発表

## ■2011年度

中京大学で「日本スポーツとジェンダー学会第10回記念大会」と題し、若手研究者の視点から3つのテーマで基調報告として登壇された。（体育学研究科博士課程3年）

## ■2012年~

中京大学社会科学研究所を拠点とし、オリンピックから考える学際研究プロジェクトでの個別テーマ「オリンピックから考えるジェンダー」の研究を行っている。

## ■2014年度（オリンピックに関する講演）

「夢を抱き、未来をつくる」をテーマに、愛知県刈谷市立小垣江小学校の4~6年生役300人を対象とする講演会を行った。

（2018年4月：現在）

以上